

【学校教育目標】  
考え表現し深め合う児童の育成

【本年度の重点目標】  
・既習をもとに自分の考えを筋道立ててつくり、わかりやすく説明する力の育成

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	校内組織運営の充実	1 職員の協働体制を充実する。 〈結果〉学校の課題解決に向けて、各分掌部による主体的な推進を図った。取組の徹底という点で、職員間の認識に差があった。 教員のAB評価83%	3 ○四者会、職員会議において会議の内容を組織全体で共通認識のもと、少しでも働き方改革を目指してほしい。 ○個別の意見を理解、把握し、助言・指導をする場をつくってほしい。	○働き方改革を目指しながら、教職員の達成感を一層引き出すように、会議を効率よく行うとともに全教職員の共通認識を図る。 ○各部、各担当の意見交流を活発に行うことができるようにし、本校の実態に応じたよりよい協働体制を推進する。
		2 PDCAのサイクルによるマネジメントを行い、改善につなぐ。 〈結果〉全職員が改善のための意見を出し、共通理解を図っていくための話し合いの方法を考えながら進めていった。(年間4回) 教員AB評価66%	3 ○改善を意識した取組を進め、途中でも改善ができれば進めてほしい。	○年間4回の検証改善サイクルを構築し、各取組の進捗状況を確認するとともに、成果につなぐ。 ○算数の重点単元を中心にカリキュラムマネジメントに取り組む。
		学力向上プランの推進を図る。 〈結果〉3 学力向上プランを見直し、取組の改善を図りながら推進した。算数は、複数体制で授業を行い、学力の向上を目指した。 教員AB評価88%	3 ○基礎・基本の定着を目指し、児童に合った授業づくりを工夫してほしい。 ○個人のレベルに適したグループ別学習指導をお願いしたい。	○学力向上プランの見直しを図りながら、児童の実態に合わせて改善し、取組の重点化を図る。
		4 主題研修の充実の推進を図る。 〈結果〉これまでの研究を踏まえて取り組み、子どもたちに考えをかく力をつけた。11月に研究発表会を実施した。 教員AB評価94%	4 ○中身のある研修を今後もお願いしたい。	○児童や学校の実態に合わせた研修を計画・推進し、教師としての力量を高める。
		総合所見 主題研修では、共通認識を図り研究を推進した。その成果、児童の「かく力」の高まりが見られた。会議の進め方についても教職員が発言できるように場の設定を工夫した。このような取組を通して「協働して、学校の取組を進める」という意識が高まってきている。今後、働き方改革も進めながら、目標の焦点化による全職員の共有化を図り、取組の充実を図っていく。		
	「や」や「さ」しい子	1 「学校は楽しい。」という子どもを育成する。 〈結果〉多くの児童が学校は楽しいと答えている。 児童AB評価 97% 教員AB評価100%	4 ○見た目は好調な雰囲気です。今後も様々な角度から見守ってほしい。 ○3%の児童に対して、特に把握してほしい。 ○学校内での生活態度にも注意してください。	○学校生活アンケート等からし、児童の実態を的確に把握し、迅速に対応していく。
2 縦割りで楽しく活動する子どもを育てる。 〈結果〉上級生が下級生を指導しながら、給食・掃除・遠足・運動会など様々な場面で、楽しく活動出来ている。 児童AB評価 98% 教員AB評価100%			4 ○縦割り活動などしっかりとできている。上級生の意識の高さは、下級生の時に上級生からしてもらったことが土台として残っているからだと思う。 ○取組の継続をお願いします。	○本校の特徴であり、取組の柱でもあるこの縦割り活動について、その成果やねらいを整理し、見直ししながら、今後も継続して取組を進める。
3 自分から進んであいさつをする子どもを育てる。 〈結果〉自分から元気に挨拶する児童も増えた一方、自分から進んで取り組んでいるとまでは言えない児童もいる。 児童AB評価93% 教員AB評価72%			3 ○子ども主体のあいさつ運動の取組の実施を通して、下小全体の雰囲気を高める。 ○日々の習慣を家庭や地域でお願いします。	○生活環境委員会やあいさつ週間の取組を継続する。 ○相手に伝わるあいさつの仕方について考えさせ、行動できるように指導する。
4 人が傷つく言葉を言わない子どもを育てる。 〈結果〉日常折にふれて、言葉づかいについては指導をしているが、まだまだ定着には至っていない。 児童AB評価86% 教員AB評価65%			3 ○今後も継続して指導してください。 ○この項目の評価が100%になることを願っている。 ○家庭での話し合いをしてできるように指導してください。	○これまでの取組の成果を踏まえて、道徳や人権学習を中心に全ての教育活動の中で、互いを尊重する態度や意識を育成していく。
5 「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」が素直に言える子に育てる。 〈結果〉学校生活全体を通じて指導したことで、できる子どもが増え、よりよい人間関係づくりにつながっている。 児童AB評価97% 教員AB評価82%			3 ○子どもの心的状況も関係している事もあると思います。家庭とも連携していくのも方法かと思えます。 ○家庭で話し合いできるように指導するように。加えて、大人の日々の態度を注視している。	○人間関係づくりの基本であり、今後も継続して指導していく。また、通信等でも取組の大切さについての周知を図る。
総合所見 「あいさつの声が聞こえない」「近くの知っている大人には自分からあいさつしてほしい」など、指導の必要性について学校関係者評価委員の皆さんにご意見をいただいた。今後もあいさつについては、学校全体で取組を進めていく必要がある。4年生を除くと単学級である本校は、学校生活の中に縦割り活動を取り入れ、異学年集団の人間関係づくりにも力を入れている。家庭との連携を図りながら、子どもたちの人間関係の変化に注視し、自他を尊重する人間関係づくりを推進していく。				

「ま」まなぶ子	1 授業では、自分の考えをかいったり、発表したりできる子どもに育てる。 (結果)授業で重点的に取り組んできたので、自分の考えを図、式、言葉などを使ってかく力が育ってきた。 児童AB評価87% 教員AB評価82%	3	○主義、主張をするために表現力を身に付けることは大事なので、取組の継続をお願いします。	○自分の考えをかいったり、発表することはできるようになってきた。今後も取組を継続していく。
	2 図書館の本をたくさん読むこどもを育成する。 (結果)本年度の重点目標にして取組を進めた。月ごとの図書館のテーマ設定、読み聞かせ、年間5回の「うちどく」週間を設定した。昨年より、読書の習慣が身につけている。 児童AB評価73% 教員AB評価88%	3	○継続的に取り組み習慣化しましょう。 ○読書は使える言葉が増え意思疎通ができ理解可能な世界が広がる等あると言われています。本が好きになる工夫をお願いします。	○本年度、成果のあった取組をさらに改善、継続し、読書の習慣化を図る。 ○「うちどく」を通して、家庭読書を推進する。
	3 家庭で約束の時間、学習できる子どもを目指す。 (結果)家庭学習の時間をプリントに明記するようにしたことで、意識付けにつながった。多くの児童には、家庭学習が定着している。 児童AB評価95% 教員AB評価81%	3	○家庭との連携を深めて、子ども自身に学習の必要性を指導支援ください。 ○習慣化できるように継続して取組みましょう。	○家庭学習の大切さや方法について、学力アップ通信等を活用しながら、学校の取組を家庭。保護者に啓発空いていく。 ○「家庭学習のすすめ」(市教委作成)の周知徹底を図る。
	4 下山田や嘉麻市の「ひと・もの・こと」を活用して、地域のことを楽しく学ぶ子を育てる。 (結果)各学年の発達段階に応じて、地域学習を取り入れた。学習発表会で、学んだことを発表した学年もあった。 児童AB評価95% 教員AB評価88%	3	○故郷の学習はいいですね。応援しましょう。 ○取組の継続をお願いします。	○本年度の実践を踏まえて、改善を図ったり、新たな地域教材を発掘したりして、「郷土を愛する人材の育成」を図る。
総合所見	学校の中心に学習がある。その中で、自分の考えを持ち表現する力が、子どもたちに育ってきた。基礎学力の定着のための家庭学習の習慣化も定着してきている。本年度は、「鍛ほめ福岡メソッド」の目標を「自ら進んで読書をする子どもの育成」とし「発達段階に合わせた読書量の見直し・設定」「チャレンジ読書」「うちどく」「校内コンクール」などに取り組み、子どもたちの読書量も増えてきた。この取組が評価され、福岡県読書コンクールで表彰を受けた。また、地域学習についても、学校関係者評価委員のみなさんに推進してほしいという声をいただいている。成果の見られたこれらの取組を評価・改善し、推進していく。			
「た」たくましい子	1 学校を休まないように気をつける子どもを目指す。 (結果)登校時刻の5分後には、全校の欠席、遅刻の情報を校務センターで確認している。全体としては、欠席は少ないが、冬場になると厳しい状況がある。 児童AB評価92% 教員AB評価94%	3	○取組の継続をお願いします。 ○児童の安全確認をしっかりとお願いしたい。 ○家庭の協力をお願いします。	○これまでの取組を継続し不登校「0」を目指す。 ○始業時刻前の欠席・遅刻の連絡の徹底を保護者をお願いします。
	2 元気よく外で遊ぶ子どもを育成する。 (結果)登校した途端、元気に校庭で遊ぶ姿がある。 児童AB評価87% 教員AB評価94%	3	○遊びの固定化が見られるが、男女を問わず楽しんで体を動かす遊びの工夫をもっと広げてやってください。 ○家庭の協力をお願いします。	○体力アップシートを活用し、外遊びを奨励する。 ○行間体育の内容・実施方法を検討し、どの子にも楽しんで体を動かそうとする気持ちをもたせる。
	3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育成する。 (結果)がんばっているが、隅々まできれいにしようという意識を持たせることができていない。 児童AB評価73% 教員AB評価77%	3	○1日の始まりは、きれいになった学校から始まる。自分たちできれいにする意識を高めてください。 ○教員が見ていない時でも、自覚を持って掃除してほしい。	○「自分たちの学校をきれいにする」という意識を育てていく。 ○教員も一緒に掃除に取り組む。
	4 「早寝・早起き・朝ごはん」ができる子どもを目指す。 (結果)安全に注意して登校できているようである。 児童AB評価94% 教員AB評価88%	3	○保護者の協力が不可欠。個別の啓発活動をしてほしい。 ○家庭の背景があると思うが、子どもに対してその大切さを指導ください。 ○昔は、子どもに大人が合わせていたのだが、大人の生活習慣委子どもが合わせている。	○睡眠や食事の大切さについて、各学年に応じた指導をしていく。 ○児童の健全育成のため、PTAの「新家庭教育宣言」の取組を有効活用しながら、家庭への啓発を行う。
	5 安全に注意して登下校できる子どもを育成する。 (結果)安全に注意して登校できているようである。 児童AB評価94% 教員AB評価88%	3	○危険個所など分団で調査、確認をし、マップを作成して活用する。 ○車で送迎する家庭が増えているが、地域の人として、分団登校を見守ってほしい。	○交通安全教室、防犯教室、避難訓練などを活用しながら、日常の安全教育を徹底する。 ○校区の危険個所について、分団児童会やPTA評議員会を活用して情報を集め、指導に生かす。
総合所見	子どもたちの安全確保、遅刻や欠席の減少のためにも集団登校の必要性を理解し推進してもらうように、懇談会、PTA評議員会等で呼びかける。体力アップについても行間体育や体力アップシートを有効活用していく。「早ね・早起き・朝ごはん・少メディア」の取組など、PTAと連携をして、取組の周知を図り、習慣化できるような取組を推進していく。			